

H26年度 第3回神経・筋疾患セミナー

「在宅における神経・筋疾患と音楽療法」

今年度、第3回目のセミナーは「在宅における神経・筋疾患と音楽療法」をテーマにH27年3月7日に開催いたしました。

音楽療法は、近年、現場での活動が活発に展開されてきており、当院では、心身の健康の回復・向上などのスピリチュアルケアを目的として行っています。今回は、公立八鹿病院 副院長 近藤清彦先生と日本音楽療法学会認定音楽療法士 加戸敬子先生をお招きし、音楽療法の効果とその実際について御講義頂きました。マラカスやキーボードを使用した実演や合唱も披露して頂き、わかりやすいとても楽しい会となりました。

日頃、在宅において患者様への精神的な援助や気分転換活動に、創意工夫しながら取り組まれている皆様にとって、実践に役立てていける内容であったと思います。

それでは、詳しいセミナーの内容について説明をしていきます。

音楽療法の歴史と効果

公立八鹿病院 副院長 近藤清彦先生

人と音楽

生きる元気
生きる支えとなる



生きがいと
しての音楽

心を癒し、苦しみや
痛みを和らげる、脳
を活性化する



治療として
の音楽

音楽療法の歴史

創成期

ダビデはサウルのうつ病を竖琴で治した（旧約聖書『サムエル記』）

発展期

第二次世界大戦により大量の傷病兵を出した米国は野戦病院において音楽を流し、ないし演奏してみたところ兵士の治癒が早まった。その後米国を中心として音楽による治療効果が立証された。

日本における音楽療法

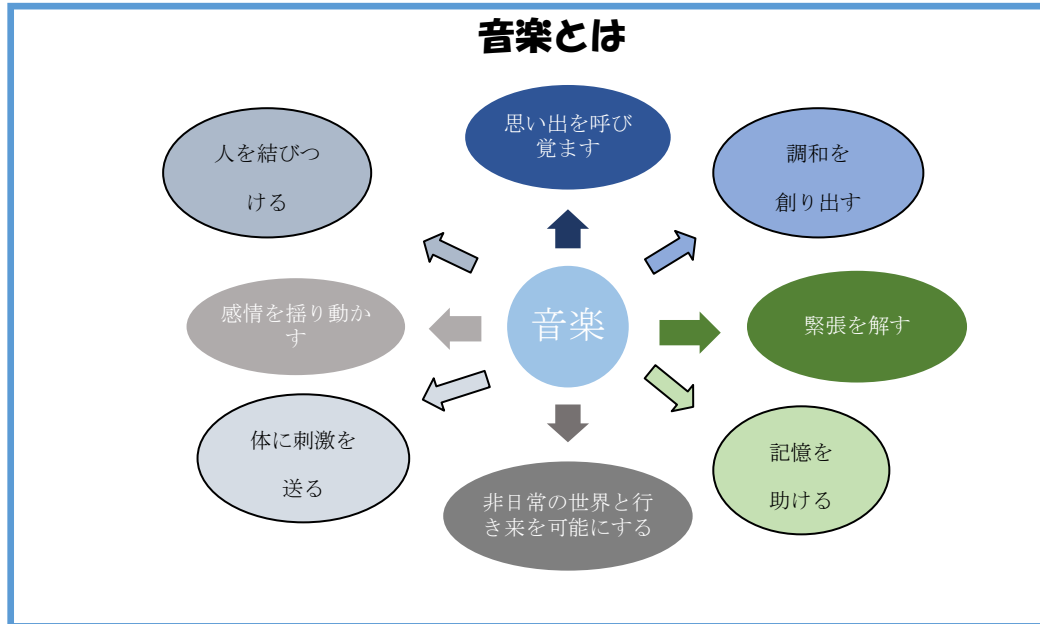
- ・1986年 バイオミュージック研究会
- ・1991年 バイオミュージック学会
- ・1995年 臨床音楽療法連盟
- ・1997年 連盟認定音楽療法士資格認定制度
- ・2000年 日本音楽療法学会
- ・2001年 第1回日本音楽療法学会

音楽療法士の国家資格取得と音楽療法の医療保険点数化を目指している。

奈良市・岐阜県
兵庫県には、独自の認定制度がある。



院内と在宅における音楽療法の実際
日本音楽療法学会認定音楽療法士 加戸敬子先生



神経筋難病患者が歌う意味

患者の抱える不安に非言語でアプローチすることができる
不安とは

- ・日々進行していく病状に対する不安
- ・言語や文字での意思表示ができなくなる不安
- ・他者とのコミュニケーションや社会との交流そのものが途絶えるという恐怖
- ・家族の中での役割、自分自身の生命の価値や自己の存在の意味などを見いだせなくなるスピリチュアルペイン
- ・家族の身体的、精神的、経済的な不安

刀根山病院での音楽療法

平成 22 年より神経内科の院内研究事業として音楽療法を開始。

集団音楽療法を月 2 回

個別音楽療法を月 4 回実施している

対象はパーキンソン病、筋委縮性側索硬化症（ALS）筋ジストロフィー、重症筋無力症、脊髄小脳変性症など。

訪問音楽療法の効果

◆回想によるライフレビューの促し

青春時代を思い出し、温かい気持ちになれた

◆闘病生活の活力を得る

発病以来気持ちが落ち込み毎日が不安との戦いだったが、音楽療法を受け、生きる勇気と歌詞から汲み取る感情で毎回復が溢れた。

◆様々な感情体験による情動の賦活

思い出に浸ったり新鮮な感情が沸き、凝固まった心が解された

◆介護者のストレス発散

外出できないストレスが癒され、他の事は全部忘れることができた

◆無意識の感情抑制の解放

普段は見られない表情により、患者理解が深まった
(介護者)

◆自尊感情の回復

存在の根元から癒された

会場の風景



近藤先生の
講義の様子
です。

2014年9月
10日「おは
よう関西」で
紹介されま
した



「ハーブで癒す
音楽療法にける医
師」2008年3月3日関
西テレビでも紹介され
ました。

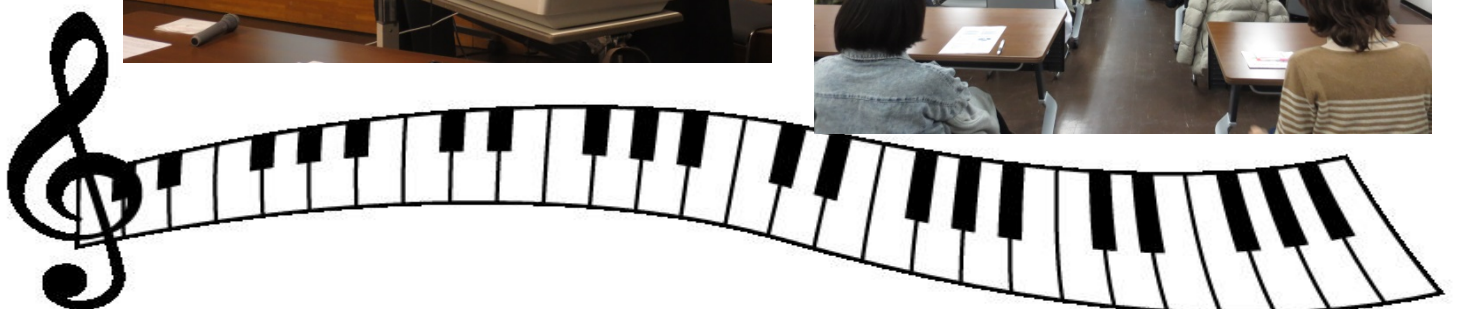


加戸先生の講
義の様子です。

キーボードを
引いて実演し
ていただきました。

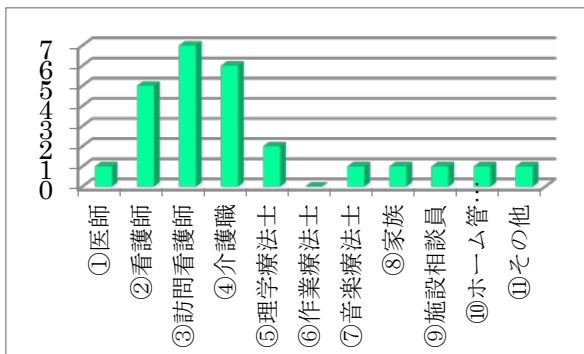


♪♪ 最後はみんなで「見上げてごらん夜の星を」を熱唱しました ♪♪

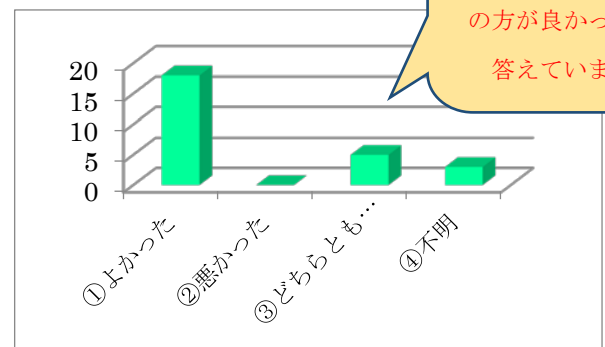


アンケート結果：参加者 27 名 回収数 26 名回収率 96%

1. 職種

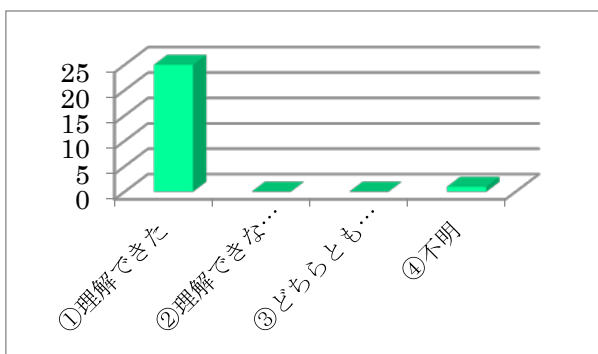


2. 午後半日開催について

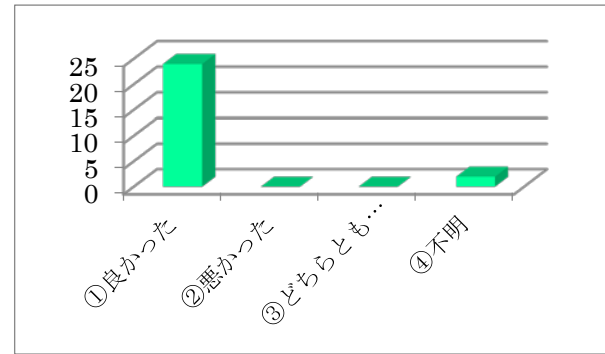


今回は、初めての午後開催でした。75%の方が良かったと答えています

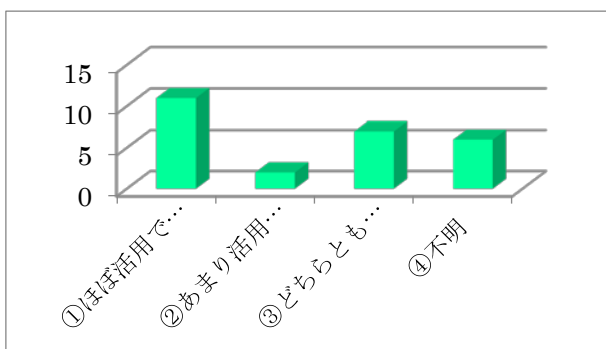
3. 講演内容



4. 演習について



5. 在宅看護での活用について



講演・演習については、ほとんどの方が理解できた・良かったとの反応でした



6. 感想・意見

- ・マラカスを使っのセッションはおもしろかった
- ・歌うだけでなくマラカスを使うだけでも楽しく過ごすことができることが実感できた
- ・疾患によって反応が違うことも気付いた
- ・実際の音楽療法場面をもっとみたかった
- ・感銘を受けました。言葉ではなく心と心で繋がることはとても良いことだと感じた
- ・実際に訪問先で患者さんと歌うことがある。その時の患者の表情や思い出話を思い出しこれからも行いたいと思う

- ・在宅でも歌うことが好きな人が多く、活かせたらと思う
 - ・音楽療法に興味があり楽しく聞くことができた
 - ・音楽療法の重要性を感じた
 - ・生活の中で生きがいを持つことは大切であり、音楽が生きがいをもつことに大きな力を発揮することが認識できた
 - ・資格をとりたい
 - ・認知症の方との関わりが主だが、コミュニケーション・心の動きを読み取っていく力を養っていききたい
 - ・音楽療法中の利用者の表情に感動した
 - ・医師が訪問先で歌う姿に衝撃を受けました。心のケアの大切さを実感した
7. 今後セミナーとして企画して欲しい内容
- ・呼吸リハビリ ・動物セラピー ・嚥下、食事について ・排痰介助
 - ・スピリチュアルケア ・音楽療法

セミナー開催後、楽しかった・感動した・在宅で活かしたいなど、たくさんの意見を頂きました。中には、もっと実演をみたかったなどの意見もあり2時間という時間はあっというまに終わってしまいました。音楽療法を在宅で取り入れることはまだまだ難しいこともあるかと思いますが、今回のセミナーが皆様の在宅での援助に少しでも役立つことを願っています。次回も、よろしくお願いいたします。